

テーマ

児童家庭支援センターやNPO等によるヤングケアラー支援の困難性と可能性

企画者：橋本達昌（全国児童家庭支援センター協議会）

発表者：橋本達昌（全国児童家庭支援センター協議会）

野尻富美（越前市みんなの食堂）

松崎佳子（福岡市子ども家庭支援センターSOS子どもの村）

西原雅子（福岡市子ども家庭支援センターSOS子どもの村）

斎藤真緒（立命館大学産業社会学部現代社会学科）

キーワード：ヤングケアラー 児童家庭支援センター 外国ルーツの子ども

企画趣旨

ここ数年、「ヤングケアラー」の存在が、大きな社会問題として世間の耳目を集めているが、従前より児童養護施設等から家庭復帰した場合に、（施設退所児童・青年自らが、）病気や障害を抱えた保護者や弟妹をケアするケースは散見されており、児童養護施設等に併設されている多くの児童家庭支援センターでは、アフターケアの一環として、このような要支援家庭に対し伴走的なサポートを行ってきた実績がある。

加えて最近では、ヤングケアラー専用の電話相談窓口を開設したり、ヤングケアラーとして様々な困難を抱えている外国ルーツの子どもとその家庭を、学習支援や食支援などを通して緩やかに見守ったりしている児童家庭支援センターやNPO組織等も生まれてきている。

そこで本シンポジウムでは、実際に地域コミュニティの中で、ヤングケアラー支援を行っている児童家庭支援センターや市民活動団体から支援実践報告を受け、彼らをサポートする過程で生じている課題や困難を共有するとともに、ヤングケアラー支援にかかるファミリーソーシャルワークのあるべき姿を展望していく。

抄録

1 児童家庭支援センターによるヤングケアラー支援の検証

全国児童家庭支援センター協議会（児童家庭支援センター一陽） 橋本 達昌

全国児童家庭支援センター協議会は、日本財団の助成を受け、2022年4月より足掛け2年にわたり、大分県、福井県、栃木県、福岡市、横浜市の5地域においてヤングケアラー支援にかかる検証事業を実施してきたが、当該事業のアウトラインと活動成果を報告する。

さらには今後、児童家庭支援センターによるヤングケアラー支援が、社会的養護の基本理念に基づいて、いかに実現されていくべきなのかという点についても考究していく。

2 外国ルーツのヤングケアラーとその家庭への支援実践の検証

みんなの食堂 野尻富美

福井県越前市（人口約8万人弱）では、人口の約6%が外国人であり、その多くを日系ブラジ

ル人が占めている。彼らは大工場の派遣労働者として主に夜勤に従事しており、その子どもたちは、(両親不在の深夜の時間帯に弟妹の世話をしたり、官公庁にて日本語の通訳を行ったりと) 多かれ少なかれヤングケアラーとなっている現状がある。

外国ルーツのヤングケアラーたちが直面している諸課題(家族のケア、通訳、生活苦、保護者との見解の相違に基づく家族間トラブル等)について、当事者の意見も踏まえながら学びを深めていく。

3 ヤングケアラーに特化した電話相談窓口の開設など多彩な先駆的支援実践の検証

福岡市子ども家庭支援センターSOS子どもの村 松崎 佳子 西原 雅子

2022年11月より、福岡市の児童家庭支援センターSOS子どもの村では、全国に先駆けてヤングケアラー支援に特化した相談窓口を開設している。

この相談事業の概要や活動成果、さらにはそれらの(電話相談の内容や時間帯等)の分析結果について報告するとともに、ヤングケアラー支援事業を実施していくにあたり実装すべきスキルやノウハウについて提起していく。

4 ヤングケアラー支援の課題と展望

立命館大学 齋藤 真緒

2022年～2023年にかけて実施されてきた全国児童家庭支援センター協議会の「ヤングケアラー支援にかかる検証事業」に、助言者として関わってきた経緯を踏まえつつ、「家族まるとして支援 Whole Family Approach」等の観点から、児童家庭支援センターによるファミリーソーシャルワーク実践の課題や展望を考察していく。

なお本演題で発表する内容における事例については、いずれも個人を特定されることのないよう匿名性に配慮した。

また発表者に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はない。